

AO 入試例題 神道学分野

『プレステップ神道学〈第2版〉』國學院大學神道文化学部編（弘文堂）出題範囲：第4章から第9章まで

【1】 以下の文章の空欄〔1〕～〔12〕それぞれに入る適切な語を、後掲の選択肢（あ）～（や）から1つずつ選び、解答しなさい。（配点 各3点×12=36点）

古代の律令国家では、国家の祭祀について〔1〕で定めた。〔1〕では、二十カ条の条文を以て、「どの月に恒例の祭祀を行うか」という点のほか、祭祀の準備、まつりのために人々が言動を慎む〔2〕の内容や期間、六月・十二月の最後の日に行う〔3〕とよばれる儀式、天皇が即位した時の祭祀・行事、などについて定めている。

日本における、国家の正式な歴史書としては最初の書となる『〔4〕』によれば、伊勢神宮のまつりは天孫降臨の際に天照大神が発した〔5〕の神勅に対応しており、はじめ天皇の宮殿でおこなっていたまつりを受け継ぐもの、と位置づけられる。まつりの場である同宮の維持管理のため、制度的には持統天皇4年から始まったとされる〔6〕では、20年に一度、社殿などを新築し、神宝や装束を新調する。〔6〕は戦国時代に中断したが復活し、飛鳥時代からおよそ千三百年を経たこんにちも続けられている。

朝廷の貴族だけではなく、武士たちにとっても神祇祭祀は重要な意義を持っていた。寛徳2年に源義家は〔7〕で元服式を行い、「八幡太郎」と呼ばれた。治承4年に源頼朝によって現在の地に建てられた〔8〕は、幕府にとっての公的な機能も持ち合わせていた。武士の政治共同体と神祇の関係は、鎌倉幕府執権北条泰時が貞永元年に定めた『〔9〕』の第一条にも示されている。

江戸時代、儒学は身分や境遇の違いにかかわらず、自分たちの在り方を理解する学問として活用された。

この儒学思想にもとづく神道説は儒家神道と呼ばれ、多くが神儒一致論に立脚し、特にそれまで習合思想により流布していた [10] 的な神道解釈を退けた。朱子学の考え方に照らしながら神道を学び、神道説を体系化した人物として、「神道五部書」の中の『[11]』という本からとった語「垂加」を掲げた [12] がいる。

[選択肢]

(あ) 教育勅語 (い) 出家 (う) 神道集 (え) 鶴岡八幡宮 (お) 式年遷宮 (か) 山崎闇斎
(き) 補陀落渡海 (く) 陰陽道 (け) 天壤無窮 (こ) 大祓 (さ) 冠位十二階 (し) 賀茂真淵
(す) 倭姫命世記 (せ) 阿弥陀如来 (そ) 神祇令 (た) 鎌倉宮 (ち) 神道護摩 (つ) 秘密血脈
(て) 御成敗式目 (と) 日本書紀 (な) 伊勢講 (に) 幣帛供進 (ぬ) 禁中並公家諸法度 (ね) 平賀
源内 (の) 斎戒 (は) 宝鏡奉斎 (ひ) 神葬祭 (ふ) 荻生徂徠 (へ) 三位一体 (ほ) 石清水八幡
宮 (ま) 仏教 (み) 往生要集 (む) 古事記 (め) 日本改造法案大綱 (も) 沙門日蓮 (や) 万葉集

【2】神道・神社と武道や相撲との関係について、例を示しながら、400 字程度で説明しなさい。(配点

14 点)

【解答例】

【1】

[1] (そ) [2] (の) [3] (こ) [4] (と) [5] (は) [6] (お) [7] (ほ)

[8] (え) [9] (て) [10] (ま) [11] (す) [12] (か)

【2】 剣道や柔道、弓道、合気道など、近世から近代に日本で発達した武術を総称して「武道」と呼ぶ。

こんにちのスポーツの中でも武道では特に、勝敗に留まらない、伝統を重んじる態度や精神的価値が強調される。多くの武道場には、鹿島神宮や香取神宮など武神の神札をまつる神棚が設けられ、神々の御前での修練という姿勢が示される。剣術や杖術には「神道」を冠する名の流派もある。近代に神社境内の武道場で武徳祭があり、現在もしばしば神社で奉納演武が行われていることにも、武道と神道との間の精神的関係が示されている。

また相撲は、『古事記』や『日本書紀』の伝える神話や故事にさかのぼり、古代の宮中儀礼から近世の社寺における興行まで、日本の歴史を通じて神事としての性格が見られる。こんにちも大相撲では行司が神事をつかさどり、各地の神社で奉納相撲が行われている。

こうした歴史と現代の実例から、神道や神社と武道や相撲の間には、信仰と身体についての重要な関係性を見ることができる。(420 文字)

AO 入試例題 宗教学分野

『プレステップ宗教学〈第3版〉』石井研士著（弘文堂） 出題範囲：第1章から第12章まで

【1】 つぎの文章を読んで、各設問に答えなさい。

日本社会に暮らす人々の多くは、自覚的・意識的な教団活動だけではなく、季節の節目に行われる [A]
や、人生の折り目に実施される [B] などの儀礼を通して、宗教的なものと関わることになる。

設問1：空欄 [A]・空欄 [B] にあてはめるのに最も適切な語の組み合わせについて、下記のア～エから選
んで、空欄 [13] に解答しなさい。（配点 4）

ア A 加入儀礼 B 強化儀礼

イ A 積極的儀礼 B 消極的儀礼

ウ A 年中行事 B 通過儀礼

エ A 危機儀礼 B 治癒儀礼

設問2：あなたがAやBに分類されると考える例をそれぞれ2つずつあげて、Aを解答欄 [14]・解答
欄 [15] に、Bを解答欄 [16]・解答欄 [17] に、それぞれ解答しなさい。（配点 各3×4
=12）

設問3：お正月になると、多くの日本人が初詣に出かける。全国でいちばん参拝者が多いのは明治神宮だが、なぜ明治神宮に多くの参拝者が集まるのだろうか。人口が増えたからといって、けっして東京の各神社の参拝者が同じように増えたわけではなく、参拝者は明治神宮に集中している。その理由は何だろうか。自分の考えを150字以上200字以内で説明しなさい。(解答欄 [18]) (配点 22)

【2】 次の各設問に答えなさい。

設問1：宗教意識（2003年段階）について若年層（20代）と高齢層（60代）を比較した場合、下記のア～エのうち、もっとも適切なものを空欄 [19] に解答しなさい。(配点 4)

ア 若年層と比べて、高齢層は「あの世」「来世」について高い関心を持っている。

イ 高齢層と比べて、若年層のほうが霊の存在や霊能者に肯定的な人が多い。

ウ 若年層と比べて、高齢層は伝統的な「神」や「仏」の存在などに対する関心が薄い。

エ 高齢層と比べて、若年層は「生まれ変わり」に対する関心が薄い。

設問2：日本における神棚と仏壇の保有率について、下記の図表からわかることについて、下記のア～エのうち、もっとも適切なものを空欄 [20] に解答しなさい。(配点 4)

図表 5 神棚・仏壇の保有率

単位 (%)

	調査年	神棚		仏壇	
		全国	14大都市	全国	14大都市
朝日新聞調査	1981	62.0		63.0	
NHK 放送世論調査所	1981	60.0		61.0	
朝日新聞調査	1995	54.0		59.0	
神社本庁調査	1996	51.3	35.9	—	
宗教団体調査	1999	49.0	29.5	57.1	48.3
神社本庁調査	2001	50.5	36.8	—	
國學院大學 COE プログラム調査	2004	44.0	29.2	56.1	46.9
神社本庁調査	2006	43.8	26.4	—	
日本人の宗教性調査	2009	43.1	28.0 ^{*1}	52.1	48.0 ^{*1}
伊勢神宮に関する調査	2014	36.4	25.2 ^{*2}		
神社本庁調査	2016	41.2	29.2	—	
庭野平和財団調査	2019	35.7	29.9	48.1	42.2 ^{*2}

* 1 19大都市、* 2 21大都市

ア 1981 年から 2019 年にかけて、神棚の保有率は低下しているが仏壇の保有率は増加している。

イ 全国でも大都市でも、どの年を見ても神棚よりも仏壇の保有率のほうが低い。

ウ 仏壇の保有率を全国と大都市で比較すると、どの年でも大都市での保有率のほうが低い。

エ 2019 年の全国の仏壇の保有率は 1981 年の保有率の半分以下である。

設問 3：世界各地の聖地とその聖地に関わる主な宗教の組み合わせについて、下記のア～エのうち、最も適切なものを空欄 [21] に解答しなさい。(配点 4)

ア 聖墳墓教会—仏教

イ ルンビニー—キリスト教

ウ ルルド—ユダヤ教

エ カアバ神殿—イスラーム

【解答例】

[13] ウ

[14] (解答例) 初詣

[15] (解答例) 節分

[16] (解答例) 成人式

[17] (解答例) 結婚式

[18] (解答例) 初詣は、一般的に地域の氏神に参詣することが基本だと考えられている。東京は人口が多い大都市であり初詣に赴く人も多い。ただ、東京には最近転入してきた人も多く、自分の地域の氏神を知らないこともあるのではないか。東京の神社の中でも明治神宮は、初詣の際に多くのマスメディアが取り上げることで知名度も高く、その影響を受けて、初詣を思い立った人々が参詣に行くことが多いと考えられる。

(184 字)

[1 9] イ

[2 0] ウ

[2 1] エ